

# 幼児が自分なりにのびのびと表現する指導と援助の工夫 ～ かく・つくる・造形遊びを通して ～

うるま市立川崎幼稚園教諭 伊波 薫

## I テーマの設定理由

幼児は、日々の生活や遊びの中で多様な体験を通して心と体を豊かにし、人・もの・こと（事象）とのつながりを深めながら、自分の世界を広げ発達していく。しかし、近年子どもたちの遊びは少子化・育児環境の悪化などの要因で、受け身的にテレビやゲームに対面している実態も年々増え、子どもだけで自由に遊ぶ機会が少なくなり、主体的に活動しようとする意欲の低下や自分を表現することに苦手意識があると指摘されている。

幼稚園教育要領では、領域「表現」において、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と示されており、幼児が生活の中で感動し、考えたり、心が揺さぶられるような体験を積み重ねること、自分の思いや考え、イメージしたことをのびのびと表現する楽しさを味わわせることが求められている。そのような状況の中で、造形表現は、自発的で探索や試行錯誤が自由にできる遊びとしての体験が数多くでき、達成感が得られる。また、かく、つくるにおいても自分の思いを表したり、伝えたりするなどの自己表現だけでなく、作品を通して自分や他者との違いも感じられ、幼児期の心身の発達に大きな役割があると考えられる。

本学級の幼児の実態を見ると、生活の中で「なんだろう？」「おもしろそう！」など不思議な場面に出会うと、今まで経験してきた方法をふまえて、絵をかいたり、廃品を利用してつくり、表現しようとする。ただ、幼児自身がこれまでの生活の中で、絵をかいたり、つくったりする経験が少ないため、画材や素材の扱い方にも課題や個人差があり、自分なりに表現することに戸惑いを感じている子や、造形遊びへの関心が弱く、すぐに飽きてしまう子がいる。

私自身のこれまでの保育実践を振り返ってみると、「造形表現につながる見通しを持った活動や体験を十分にさせていなかった」「幼児の発達の実情や課題を考慮せずに指導過多になっていた」等、幼児が自分なりのイメージを表現し、のびのびと造形遊びを楽しむ活動の視点で課題があった。しかし、学級通信を通して保護者へ造形遊びの様子や幼児の変化を伝えたところ、家庭でも取り入れて子どもと一緒に楽しむ保護者が増え、幼児も園での造形遊びに期待を持ち、喜んで取り組む子が増えてきた。学級通信を通して見られた幼児と保護者の変化から、本研究への可能性を見出せた。

そこで本研究では、幼児が造形遊びを喜び、のびのびと表現する楽しさを味わうことができるよう、幼児一人一人のつぶやきや発想、興味・関心に添った活動の充実、そのための環境構成の工夫・改善に努める。また、体験したことやイメージしたことから「思いついた！」「やってみたい」という幼児の欲求を受け止め、表現する意欲を引き出し、活動へとつなげる教師の指導・援助のあり方について考え、保育実践をしていきたい。

以上の事から、本テーマを「幼児が自分なりにのびのびと表現する指導と援助の工夫」サブテーマを「かく・つくる・造形遊びを通して」と設定した。

## II 研究目標

幼児が、かく・つくる・造形遊びを通して、自分なりにのびのびと表現できるようにする。

## III 研究仮説

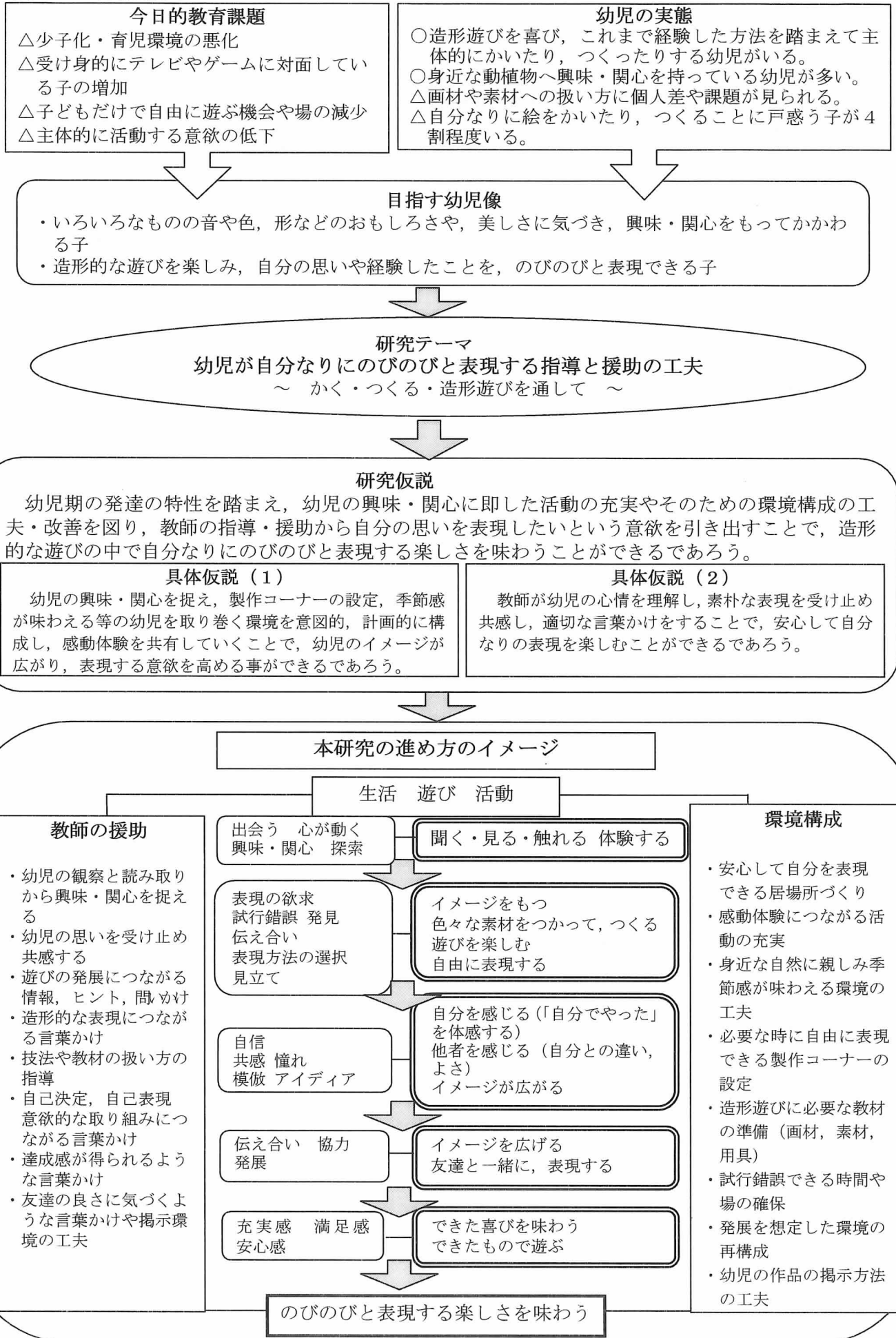
### 1 基本仮説

幼児期の発達の特徴を踏まえ、幼児の興味・関心に即した活動の充実や、そのための環境構成の工夫・改善を図り、教師の指導・援助で自分の思いを表現したいという意欲を引き出すことで、造形的な遊びの中で自分なりにのびのびと表現する楽しさを味わうことができるであろう。

### 2 具体仮説

- (1) 幼児の興味・関心を捉え、製作コーナーの設定、季節感が味わえる等の幼児を取り巻く環境を意図的、計画的に構成し、感動体験を共有していくことで、幼児のイメージが広がり、表現する意欲を高めることができるであろう。
- (2) 幼児の心情を理解し、素朴な表現を受け止め共感し、適切な言葉かけをすることで、安心して自分なりの表現を楽しむことができるであろう。

#### IV 研究の全体構想図



## V 研究内容

### 1 「環境」について

#### (1) 「環境」とは

「環境」とは、幼児の身の回りにあるもの、幼児を取り巻くすべてが環境であり、幼児の遊びはその身近にある環境にかかわることで生み出されていく。幼稚園教育における幼児の身近な環境とは、物的環境、人的環境、自然的環境に分けられ、幼児は生活の中で、その様々な環境と出会うかかわることでいろいろなことを学び、直接的・具体的な体験を通して人格形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分からかかわろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度を培っていく。また、幼児期における幼児の心身の発達は著しく環境からの影響を大きく受ける時期であり、この時期にどのような環境の下で生活し、どのように環境へかかわったかが将来にわたる発達や人間としての生き方に重要な意味を持つと考える。

幼稚園教育要領解説の幼稚園教育の基本に、「幼稚園教育においては、教育内容に基づいた計画的な環境をつくり出し、その環境にかかわって幼児が主体性を十分に発揮して展開する生活を通して、望ましい方向に向かって幼児の発達を促すようにすること、すなわち、環境を通して行う教育が基本となるのである。」と示されており、幼児期における幼児と環境とのかかわりは重要であり、幼児の望ましい発達において必要不可欠なものであると考える。

#### (2) 「環境構成」とは

「環境構成」とは、保育の場の環境を教師が整えることであり、幼稚園教育要領解説では、「環境の中に教育的価値を含ませながら、幼児が自ら興味や関心を持って環境に取り組み、試行錯誤を経て、環境へのふさわしいかかわり方を身に付けていくことを意図する。」と示されている。教師は、豊かな体験ができるような場や幼児の主体的な遊びを生み出すために必要な教育環境を、意図的・計画的に構成することが大切であると考え。

このことを踏まえて、意図的に環境を構成するための視点を幼稚園教育要領や柴崎正行・若月芳浩（2009）を基に表1のように捉えた。

表1 意図的に環境構成するための視点について

① 環境の種類、量、配置、時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の環境となる対象の種類、数量、配置、時期がふさわしいかを考える。</li> <li>・幼稚園全体の教育環境が幼児にふさわしいものとなっているか検討する。</li> </ul>
② 対象とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が自ら対象となる環境にかかわることで、対象の特性、かかわり方、さらに対象へかかわる自分自身について学べるようにする。</li> <li>・幼児の主体性を大切にする。</li> </ul>
③ 教師とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の意欲や遊びを大切に、安心して環境とかかわれるようにする。</li> <li>・試行錯誤を認め、環境へとかかわる時間、取り組む時間を確保する。</li> <li>・一緒に環境へとかかわる友達との関係性をつなげる。</li> </ul>
④ モデルとなる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師自身も環境の一部であることを意識し、環境へのかかわり方を示すことが充実した環境とかかわりにつながる。</li> <li>・環境にかかわる姿や環境を構成する教師の姿や仲間の姿があつてこそ、幼児の興味・関心が生み出される。</li> </ul>

幼稚園において望ましい環境は一つだけではなく、同じ環境であっても幼児に与える影響は異なり、教師は幼児一人一人が主体的にかかわるような環境構成に努めるとともに、下記の表のように環境である対象の種類や特性においても配慮が異なることに留意し、環境を構成することが大切であると考える。

表2 幼稚園における環境の分類と教師の配慮について

環境	内容	教師の配慮
物的環境	・幼児の身近にあるすべてのもの（園舎、ブランコ、滑り台、画用紙、粘土、折り紙、クレヨン、絵の具、廃材、絵本、机、椅子、文字、数字、遊具、用具、教材等）	・教師は幼児の視点に立ち、幼児が興味を持っていることや挑戦しようとしていること、今後の遊びの展開などを捉え、それに合った道具などを整え、準備する。
人的環境	・幼児の身近にいるすべての人（園児本人、家族、友達、教師、地域の人々等）	・教師自身が環境の一つであり、教師は自分自身が手本であることを自覚し、行動する。 ・教師の人への接し方、ものの扱い方、善悪の判断、身なり、日々の振る舞いが幼児へ大きく影響していることを認識する。
自然的環境（事象）	・幼児の身近な自然や社会の事象すべて（草花、木、水、土、砂、海、山、空、動物、昆虫、天気季節の変化、空間、時間）	・天候や四季によって変わる園庭の木々や幼児の身の回りにある自然の変化、幼児が自然物の不思議さに気づき、遊びに取り入れていけるように援助あう。

## 2 「遊び」について

遊びについて「幼児にとっての遊びは、生活そのものであり、子どもは日々の遊びの中でさまざまな経験をする重要なもの。」と保育用語辞典に記載されている。幼稚園教育要領解説の第1章3-（2）でも、遊びの本質について、「人が周囲の事物や他の人たちと思うがままに多様な仕方で応答しあうことに夢中になり、時の経つのも忘れ、そのかわり合いを楽しむことにある。すなわち、遊びは遊ぶこと自体が目的であり、人の役に立つ何らかの成果を生み出すことが目的ではない。」とある。また、「遊びの過程の中で、幼児は、達成感、充実感、満足感、挫折感、葛藤などを味わい、精神的にも成長する。自発的な活動の遊びにおいて、幼児は身体全体を働かせ、様々な体験を通して、心身の調和のとれた全体的な発達の基礎を築いていくのである。自発的活動としての遊びは、幼児期特有の学習なのである。したがって、幼稚園における教育は遊びを通しての指導を中心に行うことが重要である。」と示されていることから、幼児の遊びが、人とかかわる力、思考力、表現する力などを育てていく、重要な体験が多く含まれている大切なものであると考える。

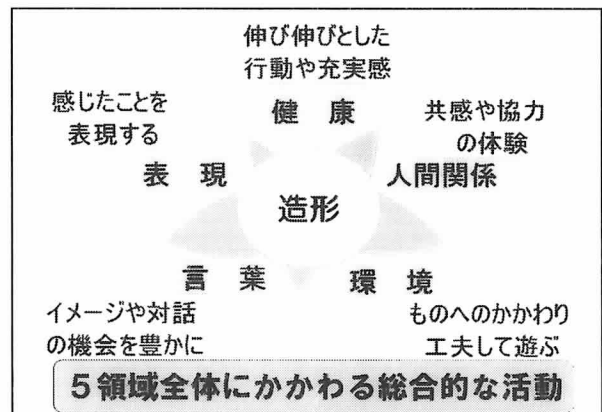
## 3 遊びを通した総合的な指導について

幼稚園教育要領解説の第1章3-（2）の②総合的な指導で「幼児期には諸能力が個別に発達していくのではなく、相互に関連しあい、総合的に発達していくのである。」と示されている。幼児が自分の興味から自発的に展開する遊びにおいて、物的、人的、自然的にも多様なかわりをもつことは、心身の調和がとれた発達の基礎となり、総合的な発達へとつながると考える。例えば、身近な環境を通して人とかかわるといった内容では、「人間関係」「言葉」「環境」の領域と、五感を働かせ身体全体で遊ぶという内容では「健康」「表現」「環境」の領域というように、5領域が総合的に影響されている。

そこで、幼稚園教育は、領域別に指導するのではなく、遊びを中心とした保育活動のなかで、相互に関連し合い、総合的に指導していくことが大切だと考える。

## 4 「5領域」と「造形表現」の関連性について

造形表現は「もの」へのかかわりを通して領域「表現」のねらいを達成するものであるとともに図1のように5領域のねらいと内容も含まれている。造形表現は「表現」のねらいの達成にとくに有効であると同時に、幼児期の教育全体のねらいを視野に入れながら、保育を計画する総合的な活動であると考えられる。また、5領域全体にかかわる展開が予想される為、いつでも活動できるように環境を整えておくことが大切であると考えられる。



## 5 「表現」について

幼稚園教育要領解説では「幼稚園においては、日常の生活の中で、出会う様々な事物や事象、文化から感じ取るものやそのときの気持ちを友達や教師と共有し、表現しあうことを通して、豊かな感性を養われるようにすること」とある。豊かな感性や自分を表現する意欲は、幼児期に、物的環境、人的環境、自然的環境などの、身近な環境とかわる中で、自分の感情や体験を自分なりに表現する楽しさを味わうことによって育てられると考える。

槇英子（2008）は「表現とは、目に見えない心の内部を外部に表しだすこと。」「表現には表現する行為である『表し』と、表現されたものである『現れ』の両方の意味が含まれている。」と述べている。幼児は生活の中で、様々なものに出会い、「なんだろう」「おもしろそう」「すごいな」「ふしぎだな」などと、その子なりの心の動きが見られる。その心の動きが、言葉や身体動作であったり、絵や製作であったりする。幼児の自己表現は、素朴な形で行われることが多く、生活の中で感じたり、考えたりしたことをそのまま素直に表現する。表現というと、目に見えるものが立派であり、完成されたものを意味するように思われるが、結果である「現れ」を豊かにすることが目指すことではないと思われる。幼稚園の保育の場において過程である「表し」を大切に、その背景全体を「表現」ととらえることが重要であると考えられる。

大場牧夫（２０００）は、「表現を氷山と捉えるならば、目に見える部分以上に水面下をいかに豊かにするかが保育の課題になる。幼児の姿は、表現の過程における情動体験、意欲や培われた表現力の豊かさによって結果的に豊かになる。」と述べている。幼児が生活の中で感動し、考えたり、心が揺さぶられるような体験を積み重ねることで、過程としての表現を豊かにし、結果としての表現も豊かになり、幼児は自分を表現する楽しさや面白さを味わい、豊かな感性や自分を表現する意欲が育っていくと考える。

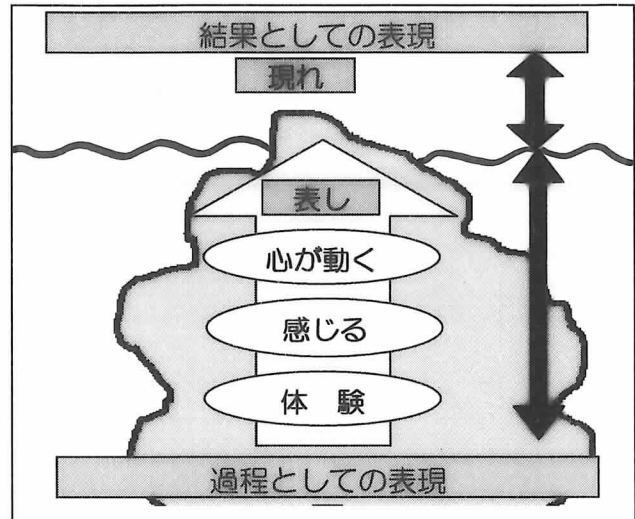


図2 表現の氷山モデル 大場牧夫（２０００）

## 6 「造形表現」について

「造形」という言葉は、「形をつくる」という意味であり、表現の手立てを示している。身体を媒体にした場合は「身体表現」、音や声は「音楽表現」、言葉は「言語表現」で、ものや絵による表現は「造形表現」となる。全員が同じ対象とかかわっても、表現の方法は様々である。例えば、動物の「象」のイメージは、腕を長い鼻のように振りゆっくり歩く動作で表現することも、鳴き声や足音などの音で表現することも、どのような動物か特徴を言葉で表現することもできる。そして、画材や廃材等を使って目で見て分かるように表現すると「造形表現」になる。

榎英子（２００８）は、「造形表現で重要な働きをする視覚は、見たものに触れる身体感覚によって育まれる。見たものを聴覚から入力した音声と結びつけることで獲得される言葉は、身体感覚をともなって習得され、その言葉によってイメージが生まれ、造形表現がより豊かになる。言葉が視覚と結びついて文字になり、造形などの活動で強められた身体感覚との結びつきが、かくことを可能にする。」と述べている。このことから、様々な表現が密接につながっていることがわかり、ものや絵による造形表現は、関連する周辺領域を含み、循環が生じるような総合的な活動であると考えられる。

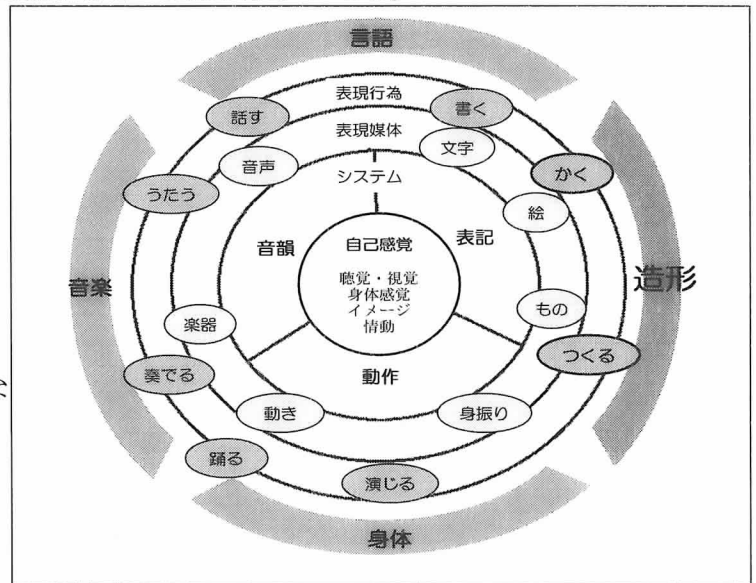


図3 「表現媒体からみた造形表現の位置づけ」  
榎英子（２００８）

### (1) 造形表現能力の発達について

幼児の造形表現の発達の道すじは個人差など多少の違いはみられるが、基本的に同じ発達の道すじをたどる。幼児の生まれながらの感性と、環境、体験によって成長していくと考える。

図4のように、諸機能が発達することにより、造形表現も変わり、造形表現が諸機能の発達を促す。そして、体験を充実することで諸機能や造形表現の発達を促す。幼児の造形表現の発達は、心身の発達と関係性があると考えられる。

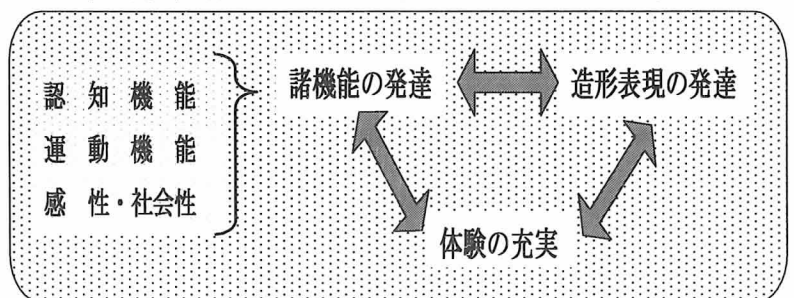


図4 「幼児の造形表現の発達における諸機能との関連」  
東山 明（２００５）

また、次の図5のように3歳から6歳までの発達の過程において、造形表現にかかわる体験を重ね、表現意欲を高めることにより、小学校就学以降の発達が著しく伸びるのではないかと考える。幼稚園生活の中で、幼児の発達の課題を踏まえた造形表現の充実が、今後の造形表現の土台となる大切な時期であると捉える。

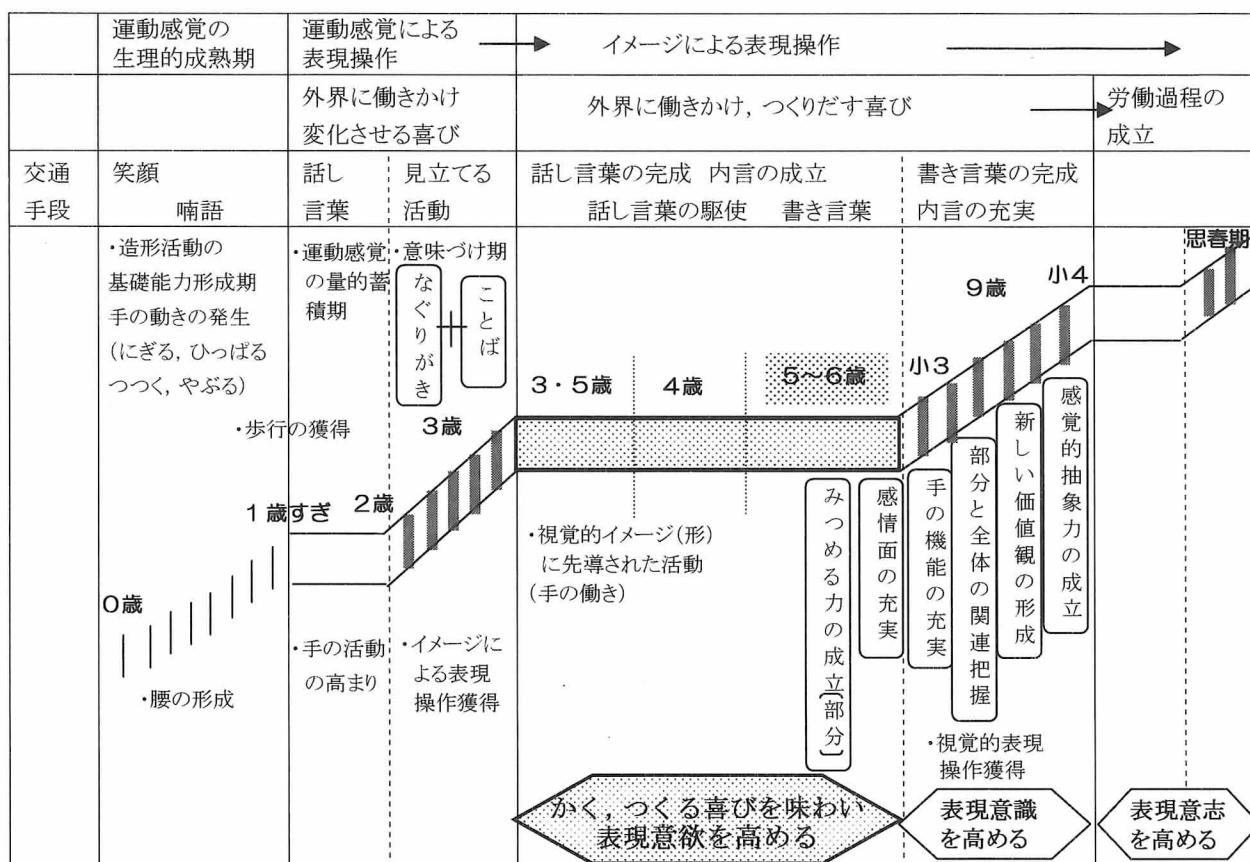


図5 「造形表現能力の発達の道すじと発達の節」美術教育を進める会 西村 貞雄（1980）参照

## (2) 「かく・つくる・造形遊び」について

### ① かく

かくとは画材を用いて、経験したことや想像したことを描くこと。教師は、幼児へいろいろな技法を使ってかく楽しさを味わわせ、思いをありのまま受け止め、寄り添い援助することが大切だと考える。

### ② つくる

つくるとは、材料や用具を用いて形を作ること。教師は、幼児が想像したものを形にしたり、ものものを組み合わせる楽しさが味わえるよう、様々な材料、用具を用意し、材料体験ができるようにすることが大切だと考える。また、安全面の配慮、その指導も細やかに行う。

### ③ 造形遊び

造形遊びとは、身近な自然や人工物の色や形、場所、空間等に手や指だけでなく全身の感覚を働かせてかかわり遊ぶこと。教師は、幼児が環境とかかわる姿を見取り、繰り返し試したりしながらものの特性に気づけるように援助する。また、ものの形や色、感触等からイメージしたことを表現する場面を大切に、遊びが広がるように援助することが大切だと考える。

## 7 「教師の役割」について

教師の役割について、幼稚園教育要領解説では「幼児の主体的な活動を促すためには、教師が多様なかわりを持つことが重要であることを踏まえ、教師は、理解者、共同作業員など様々な役割を果たし、幼児の発達に必要な豊かな体験が得られるよう、活動の場面に応じて適切な指導を行うようにすること。」と示されている。幼児の活動の場面に応じた教師の役割とは次のとおりである。

- (1) 幼児が行っている活動の理解者としての役割
- (2) 幼児の共同作業員、幼児と共鳴するものとしての役割
- (3) 憧れを形成するモデルとしての役割

- (4) 遊びの援助者としての役割
- (5) 意図的、計画的な環境を構成する役割

実際に教師がかかわる場面で、これらの役割が相互に関連し状況に応じて柔軟に対応し、幼児と生活を共にしながら、一人一人の特性や発達の課題を把握していくことが大切であるとする。

## 8 「教師の具体的な援助」について

日々の保育の中で、幼児が求める直接的な援助について、大きく分けると4つの方向性があると、柴崎(1992)は述べており、この考えを参考に、造形表現の活動での教師の援助をまとめた。

表3 造形表現活動での教師の直接的援助

直接的な援助	造形活動での教師の援助
(1) 子どもの心を支えていくこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに表現しようとする姿を認め、表情やしぐさ等で安心感を与える。</li> <li>・うまくできずにいたり、失敗したり、作品が壊れてしまった際に、思いを共有し甘えさせたり、慰めたりする。</li> </ul>
(2) 子どもたちと共に活動を生き生きとしたものにしていくこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に取り組みながら、アイデアやヒントを与えたり、必要な技法を教えたり環境構成をしていく。</li> <li>・遊びを方向付けたり、友達とのかかわりをつなげていく。</li> </ul>
(3) 子どもたちの力を信頼して任せていくこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が自分たちで活動を進めていけそうだと思うのなら、幼児の意欲や発想を受け止め、任せてみる。</li> <li>・うまくいかなければいつでも必要な援助ができるように見守る。</li> </ul>
(4) 子どもたちに期待して励ましていくこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児がかいたり、つくったりしている場面で、幼児のもてる力や発想を広げ発揮できるように励ましたり、期待していく。</li> <li>・思いが実現した際には、認めることで、自信へとつなげていく。</li> </ul>

また、柴崎は、この直接的な援助の4つの方向性から、3つの項目に分けて、次のように、教師の具体的な援助を示している。

### (1) 受容的にかかわり安心感を生み出す

幼児は園生活の中で様々なことで失敗したり、行きづまったり、葛藤したりする。その際、幼児なりに解決していくことが必要になるが、うまく解決できずに心が不安定になる時、教師へ甘えたり、自分を認めてもらいたくなる。教師がそれを受け止め慰めたりすることで、不安は取り除かれ、気持ちが回復し、安心して過ごすことができる。

### (2) 幼児と一緒に活動するなかで共感的援助をする

幼児は園生活の中で、様々な活動に取り組んでいく。時にはどのようにすればよいかわからなくなり、うまく展開していけないときもある。その際、教師が必要に応じてアイデアやヒントを出し、活動をうまく盛り上げたりすることで、活動を生き生きと楽しいものにしてもらえる。また、どうすれば活動を楽しく展開していけるかを知るためにも、必要な援助となる。

### (3) 幼児がもてる力を発揮して成長していこうとするように志向的に援助する

幼児と一緒に活動を展開していく中で、幼児が自分たちで目的をもって進めていけそうだと思うのなら幼児を励まし、任せて見守ることが求められる。どこは任せておけるか、どこは手伝う可能性があるかを見通し、必要なときにいつでも励まし、手伝うことができるように準備しておく。また、見守りながら幼児が力を発揮できた際には、喜ぶ気持ちを伝えたり、成長を認める言葉かけをすることで、幼児に自信と希望を与える援助となる。

そこで、柴崎氏の論を参考に、3つの具体的な教師の援助を表にまとめた。

表4 具体的な教師の援助

具体的な教師の援助	受容的な援助	共感的な援助	志向的な援助
	(ア) 幼児が甘えることができる	(ア) うまくできないときには教える	(ア) モデルになる
	(イ) 幼児が褒めてもらえる	(イ) うまく説明できない子の代弁をしたり、状況の説明をする	(イ) 励まし見守る
	(ウ) 幼児が悲しみを表現できる	(ウ) 子どもたちと一緒に考えていく	(ウ) 期待する
	(エ) 幼児がさびしさを表現できる	(エ) おもしろそうなアイデアやヒントを出す	(エ) 悔しがる
	(オ) 幼児がありのままの自分を認めてもらえる	(オ) 自分も子どもと一緒に楽しむ	(オ) しかる
	(カ) 幼児がクラスの一員として認められてもらえる		(カ) 気づかせる

この具体的な教師の援助は、幼稚園生活の中での幼児の姿を捉え、発達の時期や個々の発達の課題に沿って、教師が意図的に計画していくことが大切であるとする。

9 造形表現の年間計画


1年間の園生活における幼児の発達の過程，かく・つくる・造形遊びの方法，教師の援助を表にまとめた。(  は，本研究の検証に関する内容を示している)

表5 造形表現の年間計画

期	1期	2期	3期	4期	5期	
月	4月～5月	6月～7月(8月)	9月～10月	11月～12月	1月～2月～3月	
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師とのかかわりの中で安心して過ごす。</li> <li>基本的な生活習慣がわかり，自分でやろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園生活に慣れ，気の合う友達とかかわりながら好きな遊びを楽しむ。</li> <li>自己主張が強くなり，トラブルを経験していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間意識が芽生え，友達と共に生活することを楽しむ。</li> <li>全身を使った活動が活発になり，意欲的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒に思いやイメージしたことを伝え合いながら遊びを進めていく。</li> <li>友達と共通の目的を持ち，一緒に実現しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの経験をいかして自信を持って生活していく。</li> <li>友達と共通の目的を持ち遊びを展開する。</li> <li>就学への期待，意欲が高まっていく。</li> </ul>	
ねらい	安定して遊び，周囲の環境に興味・関心を持ち，意欲的にかかわる。	友達とかかわりのなかで，自分なりの目的を持ち，思いを伝え合いながらいろいろな遊びをする。	共通の目的を持って遊んだり，課題に取り組んで，力を発揮する楽しさを知る。	友達と考えやイメージを伝え合い，試す，工夫，協力して遊ぶ楽しさを知る。	友達との共通の目的や，個人の課題に主体的に取り組む，達成感や充実感を味わう。	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然や廃材等を見つけ，試したり工夫して遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで考えた遊びや，設定された課題に積極的に参加し，工夫して表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味のある課題にじっくり取り組み，やりとげる満足感を味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現する過程で本物らしさや，美しさや楽しさを表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで計画やルール，役割を決め，自分の力を発揮する。</li> <li>これまで経験した技能を使って表現する。</li> </ul>	
遊ぶ	かく	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぬり絵(色の認識)</li> <li>クレヨン(扱い方，線，形)</li> <li>はじき絵</li> <li>デカルコマニー</li> <li>吹き絵</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パスのぼかし(指，布，ティッシュ)</li> <li>スクラッチ(木，虫，花火)</li> <li>スタンプング(野菜，葉，果物)</li> <li>ぼかし絵</li> <li>手形(葉，海)</li> <li>ローラー遊び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こすりだし</li> <li>砂絵</li> <li>絵の具で色付け(マカロニ)</li> <li>万国旗</li> <li>運動会の思い出をかく(全体，個人)</li> <li>はり絵(ハロウィン)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の絵</li> <li>いも掘りの絵</li> <li>スタンプング(いも)</li> <li>マーブリング</li> <li>紙版画</li> <li>クリスマスの絵</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>凧に絵をかく</li> <li>節分の絵</li> <li>自分の絵</li> <li>幼稚園の思い出をかく(全体)</li> </ul>
	つくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>折り紙(チュールリップ，こいのぼり，おたまじゃくし，アジサイ等)</li> <li>粘土遊び</li> <li>廃材でつくる(カタツムリ，剣，ロボット等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>折り紙(時計，セミ，魚等)</li> <li>切り紙</li> <li>七夕の飾り</li> <li>廃材でつくる(海の世界)</li> <li>看板づくり(ごっこ遊びに必要なもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>折り紙(うさぎ，かぼちゃ，果物等)</li> <li>廃材でつくる(とんぼ)</li> <li>ハロウィンの衣装コーナーづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>折り紙(どんぐり，きのこ，サンタクロース等)</li> <li>粘土遊び(動物等)</li> <li><b>自然物や廃材でつくる(どんぐりの家)</b></li> <li>紙版画</li> <li>クリスマス靴下づくり</li> <li>クリスマスの飾り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>折り紙(凧，こま，鬼，お雛様等)</li> <li>凧づくり</li> <li>廃材でつくる(鬼のお面，お雛様)</li> </ul>
	造形遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂場遊び(型ぬき，山づくり，ごっこ遊び)</li> <li>お花集め(料理，お店屋さん，色水遊び)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂場遊び(水を流す，川，ダムづくり，)</li> <li>色水遊び</li> <li>あわわ</li> <li>石鹸でホイップ遊び</li> <li>ボディーペインティング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂場遊び(団子づくり，ごっこ遊び)</li> <li>草花や野菜集め(キャンプごっこ)</li> <li>色水，ホイップ遊び(ジュース，ケーキ屋さん等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いものツル遊び(つなげる，長さを確かめる，ツルで縄跳び，アクセサリー屋さん)</li> <li>木の葉集め(生き物づくり，お面づくり)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ダンボール遊び</b></li> <li>(恐竜づくり，トンネルづくり，家づくり，バスづくり，ごっこ遊び)</li> </ul>
<p style="text-align: center;">↑ ↑ ↑</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>受容的な援助</p> <p>安心して自分を表現できるように 楽しく活動できるように</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>共感的な援助</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>志向的な援助</p> <p>自分の力を発揮してのびのびと表現できるように</p> </div> </div>						

計画に沿った活動の中で，幼児の姿を捉え，成長に合わせて教師のかかわり方を変えていく必要があると考える。入園当初は受容的，共感的な援助を心がけ，次第に幼児が主体的に活動を展開できる方向へ向けての志向的な援助を増やしていくことが，小学校へのつなぎ(発達と学びの連続性)としても大切であると考えている。



## VI 指導の実際

### 1 検証前保育の実践

入園当初からこれまで、幼児の実態を踏まえ、造形表現の年間計画を基に保育実践を行った。

見て見て～！！泡がふくらんで、あじさいみたいになったよ



シャボン玉を吹いて、泡がブクブクと出てくる音や色のついた泡が膨らむ様子を楽しんでいる。

図6 6月「あわわ」色のついたシャボン玉を、あじさいに見立てた遊び

あざやかだな～

うわあ～！！いろいろな色が混ざったよ！

どんどん膨らませて大きくしよう！！

友達と一緒に、色が混ざり合う様子や、泡が重なったり、広がったりする様子しぼんでいく様子を確かめ合っている。

オーロラみたいだな

図7 6月「あわわ」様々な色を使い、色の混ざり具合を楽しみ、色の不思議さや美しさを感じる遊び

次は、黄色のオクラのスタンプでバナナにしようかな～

オクラで星の形もできよ



園で栽培した夏野菜を収穫し、野菜の形のおもしろさを感じたり、形からイメージしたものを組み合わせている。

図8 7月「スタンプング」野菜を使ったスタンプ遊び

ポンポンポン♪

指でスタンプすると葉っぱみたいだね



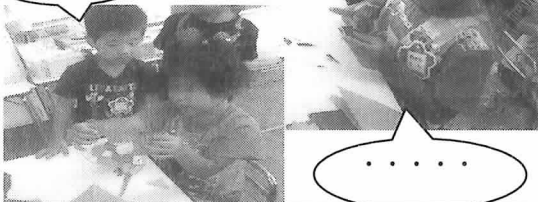
クレヨンとレボカラーを使った「スクラッチ」で特性が違うものを混ぜ合わせる楽しさ、不思議さを味わい、夏の虫をかいている。また、指でリズムを感じ、「スタンプング」で葉をつけている。

指についた絵の具を拭き取る際は、ウエットティッシュを使用する。ウエットティッシュに色がにじむ様子も楽しみ、乾いた後は空間に飾った。

図9 7月「スタンプング」「スクラッチ」を組み合わせて、木にとまる夏の虫の作品づくり

ほら！切ったものをこう合わせたらね～

うんうん



折り紙を折り曲げ切ったら、どんな形になるのかな？とワクワクしながら取り組んでいる。切ったものを合わせたり、つなげたりすることも楽しんでいる。

図10 7月「切り紙」遊び

パシャパシャ波みたい！！

海にしよう



海づくりに発展！！

大きな画用紙に手形をつけて、ダイナミックに遊びを楽しんでいる。その後、魚を貼りつけ、海づくりに発展した。

図11 7月全身を使ってダイナミックに「手形」遊び

### 考察

検証前保育の実践を通して、入園当初と比べると造形表現を楽しむ幼児が増え、戸惑う幼児も少なくなってきた。それは教師が、日々の保育の中で幼児の実態を捉え、幼児が興味・関心を持てるような、様々な遊びを取り入れ援助したことで、造形表現の楽しさが味わえたからだと考える。

### みんなで運動会の絵をかこう！！（学級全体）

体験したことを絵にかく活動で、幼児の「かきたい！」という思いや意欲を引き出したい。導入でのきっかけや友達と一緒にかく雰囲気を味わうことで、苦手意識がある幼児も楽しく参加してほしい。



どこにかこうかな～



おれ、いっぱいかく！！

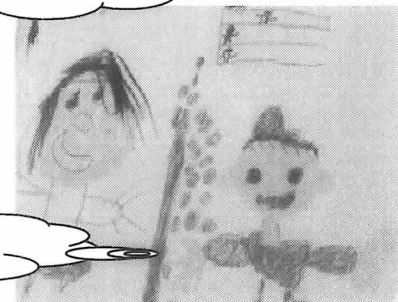
幼児は、大きな画用紙を見ると大喜びで自分のクレヨンを取り出し、すぐに運動会の絵をかき始めた。



応援する人がいっぱいいたよね



つなひきしたいな



玉入れ楽しそうだったな

幼児は運動会の様子を思い出し、友達と伝えあいながら、一緒にかく姿が見られる。

幼児がかいた絵を見ると、運動会での自分の姿だけでなく、やってみたいことも現れている。

図 12 10月 運動会の絵を「かく」遊び（全体）

### 運動会の絵をかく場面（学級全体から）

運動会の絵をかく中で見られた学級全体の幼児の姿は、全員が期待を持って参加し、のびのびとかいていた。それは、教師が活動の中で、幼児がわくわくするような教材準備や環境の工夫を図ったことで、幼児の「かきたい！」という思いや意欲を引き出したからだと考える。そして、友達と一緒にかくことで、より楽しさが味わえたのだと思われる。さらに、教師が幼児の自分なりにかく姿を認め、褒める援助を心掛けたことで、かく楽しさや満足感を味わい、幼児が自信を持ってのびのびとかくことができたのだと考える。

### 抽出児から

R児は、これまでの生活の中で絵をかくことへの興味がなかなか見られず、「できないから」「かけないのに・・・」と苦手意識を持っている。しかし、運動会の絵をかく活動では意欲的に友達と運動会の様子を伝え合いながらかく姿が見られ、ミルクを飲む時間になっても、絵をかいている場から離れようとせず「もっとかきたい！まだ、かくのがある」とうったえてきた。そこで教師が、R児がどんな思いでかいているのか受け止め、安心して取り組めるような言葉かけや、活動を続けられるように場と時間の確保をし、その様子を見守ることにした。その後R児は、個別で運動会の絵を描く際にも喜んで取り組み、かくことへ躊躇することなく自分の思いを絵に現していた。

そのことから、この活動は学級全体と個別に課題がある幼児にとって、かきたい意欲を引き出し、安心して自分なりにかくきっかけになったと思われる。また、この検証前の実践での体験が、図2で示した、過程としての表現を豊かにし、これからの検証保育の実践保育の中で、豊かな感性や自分を表現する意欲を育てていくと考える。

## 2 保育実践

### 検証保育①

仮説を検証するために、以下の保育計画で保育実践を行った。

月 日	保育活動	ねらい	☆環境構成◎教師の援助
11/14 (水) つくる①	・「どんぐりころころ」を歌って踊る 絵本「きいちゃん のどんぐり」	・「どんぐりころころ」の世界を味わってどんぐりに興味を持つ。	◎幼児と一緒に歌ったり踊ったりすることを楽しみ、歌の歌詞から「どんぐりころころ」の歌の世界が感じられるような言葉かけをする。(歌詞からのイメージを引き出す言葉かけ)
11/15 (木) つくる②	・折り紙で、どんぐりを折る ・折ったどんぐりをつなげて飾る 絵本 「どんぐりどらや」	・折り紙でどんぐりを折る楽しさを味わう。 ・折ったどんぐりに模様をつけ、つなげたりする。	◎どんぐりの折り方がわかり、繰り返し取り組む姿を認め、褒めていく。 ◎うまく折れない幼児には、個々に応じて細やかな援助をしていく。 ☆幼児が折ってつなげた作品を一緒に飾って、雰囲気づくりをする。
11/19 (月) つくる③	・どんぐりであそぼう(こま、どんぐりすごろく)	・本物のどんぐりで遊ぶ楽しさを味わう。	☆本物のどんぐりに触れて遊ぶ楽しさが味わえるように、必要な教材を準備する。 ◎幼児が、ルールを自分たちで決めたりしながら、遊びが展開できるように援助する。
11/20 (火) 11/21 (水) つくる④	・どんぐりにいのちをこめよう(どんぐりに顔や手足をつける) 絵本 「どんぐりむらのぼんやさん」	・どんぐりや素材を使って、イメージしたものをつくる楽しさを味わう。	◎どんぐりの顔や手足をつける際に必要な材料(どんぐり、細い油性マジック、木工ボンド等)を準備する。 ◎細かい作業が多いため、好きな遊びの時間に少人数で取り組み、丁寧に援助していく。 ◎幼児の発想や思いを受け止め、認めたり褒めたりしながら、つくる楽しさが味わえるようにする。 ☆幼児がつくった作品を飾り、友達の工夫が感じられるようにする。
11/26 (月) つくる⑤	・どんぐりの家に必要な材料集めをする 絵本 「100かいだてのいえ」	・身近な素材を自分で探し、どんぐりの家をつくる活動に期待を持つ。	◎「100かいだてのいえ」を読み、自分が作りたいどんぐりの家のイメージを話し合い期待が持てるようにする。 ◎☆園庭から、自分が作りたい家に必要な材料を探す際に幼児の発想を受け止め、共感する。また「これは屋根につかってみよう」等ヒントを出しながら、よりイメージが膨らむようにする。
11/27 (火) 本時 つくる⑥	・「どんぐりの家をつくろう」 絵本 「すてきなおうち」	・身近な素材を使って、自分のイメージしたどんぐりの家をつくる楽しさを味わう。	☆材料を準備し、使いやすいように配置する。 ◎幼児の思いや考え、イメージしたものを受け止め、言葉かけや表情で共感していく。 ◎戸惑ったり、行き詰まったりしている子へ、寄り添い一緒に考えたりヒントを与えて、安心して自分なりに作れるように援助する。
11/28 (水) つくる⑥	・「どんぐりの家をつくろう」 絵本 「11ぴきのねことぶた」	・自分のイメージしたどんぐりの家をつくる楽しさを味わう。	◎幼児の頑張っている姿や工夫している姿を認め、他の幼児に知らせる。
12/4 (火) つくる⑦	・「どんぐりの街をつくろう」	・友達と一緒に考え、伝え合いながら街をつくる面白さを味わう。	☆街づくりに必要な材料(大きな画用紙、色画用紙)を準備し、幼児が気づいて作れるようにする。 ◎友達と一緒に考えたり、工夫しながら取り組む姿を見守り、自分たちで遊びが発展できるように援助する。 ◎試しながら遊んだり、工夫する姿を認めていく。

### 保育指導案

(1) 活動名 「どんぐりの家をつくろう」

(2) ねらい 身近な素材を使って、自分のイメージしたどんぐりの家をつくる楽しさを味わう。

(3) 活動設定の理由

幼稚園教育要領の領域「表現」において、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と示されている。幼児が生活の中で感動し、考えたり、心が揺さぶられるような体験を積み重ねること、自分の思いや考え、イメージしたことをのびのびと表現する楽しさを味わうことができるようにすることが大切であると考える。そこで、秋の季節が感じられる自然物「どんぐり」を活用した造形的な表現遊びを通して、幼児の豊かな感性を育てたい。どんぐりに関する様々な遊びを重ねることで、幼児の心が動かされ、どんぐりへの興味・関心からイメージが広がり、つくる楽しさを味わえるであろうと考え、本活動を設定した。

### ① 幼児の実態

現在、幼児は、好きな遊びの中で、うんていや縄跳び、竹馬などの運動遊びに挑戦している。友達同士で教え合ったり、競い合ったりしながら身体を動かすことを楽しんでいる姿が見られる。また、いもほりの際には、芋のツルや葉を使って、縄跳び、アクセサリー作り、お店屋さん、身体でツルの長さを測る、ツルをつなげることを楽しむ姿が見られた。

どんぐりを題材にした活動では、「どんぐりころころ」の歌やリズム表現を楽しんでいる。歌詞について話し合った際には、幼児自身が生活の中で経験したことを、どんぐりに置き換えてイメージしている幼児が多く意欲的に伝える姿が見られる。折り紙遊びでは、つくった作品を飾り、見たり、なでたりしながら大切に扱う姿が見られる。

### ② 教材観

本活動は、環境の内容「(4) 自然などの身近な事象に関心を持ち取り入れて遊ぶ。」表現の内容「(5) 色々な素材に親しみ、工夫して遊ぶ。」「(7) かいたり、つくったりする事を楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。」を組み合わせて構成している。秋の自然のおもしろさや季節の変化などを遊びを通して体感していくことが大切であると考え。その秋の自然物と、普段から遊び等に使っている身近な素材を組み合わせることで、幼児が、よりイメージを膨らませることができ、遊びを広げられるのではないかと考える。

### ③ 指導観

- ・幼児が家をつくる場面では、一人一人のつぶやきや思いを大切に受け止め、その子らしい表現や発想、工夫などに共感する。その姿には、笑ったり、驚いたり、目を輝かせる等の表情や、うなずき、耳を傾けるしぐさ、「そうだね」「おもしろいね」「すてきだね」「わくわくするね」等の言葉で認めていく。
- ・幼児が失敗した際には、やり直しがきくように材料を与え、「大丈夫だよ」「一緒に考えてみよう」という言葉かけ等、安心して自分を表せるような雰囲気作りをする。
- ・材料コーナーの設置場所を工夫し、材料を取りながら友達の作品にも気付けるようにする。
- ・幼児がつくることに夢中になっている時には、不必要な言葉かけは控え、じゃまをしないようそっと見守る。集中できる環境づくりを心掛け、必要に応じて援助をしていく。
- ・活動後の振り返りでは、幼児の思いや工夫等を聞くことで、自分を振り返らせ、自信へとつなげたり、友達の作品のよさや面白さが味わえるような場にしていく。

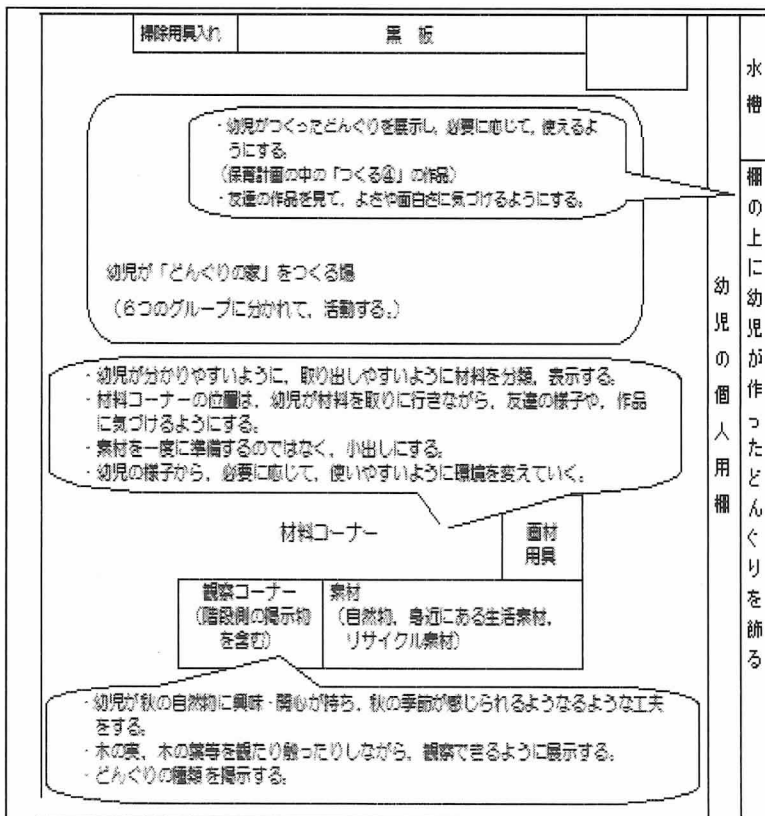
以上のように、教師が援助、環境の工夫を図ることで、幼児がつくる楽しさを味わい、のびのびと表現することができるのではないかとと思われる。また、振り返りを通して、次回の活動への期待を高めることができるのではないかと期待する。

### (4) 本時の展開

平成 24年 11月 27日 (火)うるま市立川崎幼稚園 そら組 28名(男児 17名 女児 11名)保育者 伊波 薫			
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いもほりの際に、芋のツルで縄跳びをする子、身体をつかってツルの長さを測る子、「つなげてからどんどん長くしよう」と友達と一緒にツルをつなぎあわせ、長くしていく様子を楽しむ子、ツルやカズラの葉でアクセサリーをつくり、看板を準備してお店屋さんごっこをする子など、自分たちでいもほりから、様々な遊びに必要なものを見出し、工夫して楽しむ姿が見られた。</li> <li>・「風がいきもち」と季節の変化を感じている子や「秋はくりとりんごがおいしいんだよ」と秋について会話をしている子が多くみられる。</li> <li>・どんぐりに興味・関心をもって、歌やリズム表現、どんぐりすごろくなどの遊びを楽しんでいる。折り紙でどんぐりをつくる活動では、意欲的に取り組み、繰り返し作る姿が見られる。作品をつなげると「いっぱいある」「いろんな色のどんぐりがきれい」と喜んでいる。一人一人の作品を紹介すると嬉しそうな表情を見せている。</li> <li>・造形的な遊びの場面で、イメージができずに取り組むまでに時間を必要とする子が6名いるが、寄り添い、言葉かけをしながら一緒にすることで、活動を楽しむことができる。</li> </ul>		
ねらい	・身近な素材を使って、自分のイメージしたどんぐりの家をつくる楽しさを味わう。		
活動仮説	・どんぐりの家をつくる造形的な表現遊びの場において、幼児の思いを受け止め認める言葉かけ、様々な素材が活用できる環境構成の工夫を図ることで、イメージを広げ、のびのびと自分の思いを表現することができるであろう。		
時間	○予想される幼児の活動	◎教師の援助	*評価項目

9:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵本を見る。</li> <li>○教師の話聞く。</li> <li>○材料を見て、イメージを広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵本の読み聞かせをする。</li> <li>○前回の活動を振り返り、今日の活動を知らせる。</li> <li>○活動で使用する画材や用具、素材を紹介しながら、その材料でどんな家をつくれるか投げかけることで、幼児の意欲を引き出す。</li> <li>○教材や用具の扱い方を確認し、安全に使用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*興味や関心を持って教師の話を楽しんでいるか</li> </ul>
9:45 9:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テーブルやいすを用意する。</li> <li>○どんぐりの家を作る</li> <li>○必要な素材を選び、自分がイメージした家をつくる。</li> <li>○失敗したり、うまくできないと教師に訴えてくる。</li> <li>○友達のつくる様子を見て真似をしたり、工夫したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と協力して用意する姿を見守る。</li> <li>○幼児の思いや考え、イメージしたものを受け止め、言葉かけや表情で共感していく。</li> <li>○安心して活動に取り組めるような雰囲気作りを心掛ける。</li> <li>○個別に援助が必要な子を把握し、必要に応じて言葉をかけ、一緒につくったり、イメージが実現できるように個々に応じた援助をする。</li> <li>○幼児の頑張っている姿や工夫している姿を認め、他の幼児に知らせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*喜んで活動に参加しているか。</li> <li>*のびのびと自分の思いを表現していたか。</li> </ul>
10:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○使った物を片づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○頑張る気持ちを認め、きれいになった心地よさが味わえるようにする。</li> </ul>	
10:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師や友達の話聞く。</li> <li>○自分の作品を見せ、どんな思いでつくったか等発表する。</li> <li>○友達の作品を見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品を紹介し、今日の活動を振り返り、幼児の発想や、工夫したこと、困ったこと、次の活動への思いを聞いていく。</li> <li>○頑張りを認め、幼児の自信へとつなげる。</li> <li>○友達の作品の良さや、おもしろさが味わえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*次の活動に期待が持てたか。</li> </ul>
11:00			
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージを広げ、喜んで活動に参加し、つくる楽しさが味わえるような環境構成であったか。</li> <li>・そのための教材の選定は適切であったか。</li> <li>・幼児の姿を受け止め、共感し、幼児が安心して自分の思いをのびのびと表現できる援助ができていたか。</li> </ul>		

### (5) 環境構成



#### 材料コーナーに準備するもの

画材	用具
<ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙</li> <li>・クレヨン</li> <li>・マジックペン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はさみ・のり</li> <li>・ボンド・モール</li> <li>・セロテープ</li> <li>・折り紙</li> </ul>
自然素材	身近にある生活素材
<ul style="list-style-type: none"> <li>・木の葉</li> <li>・木の实 (どんぐり)</li> <li>・木の枝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙コップ・紙皿</li> <li>・割り箸・竹ぐし</li> <li>・つまようじ・毛糸</li> </ul>
リサイクル素材 (廃材)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛乳パック・空き箱・ペットボトル</li> <li>・トイレトペーパーの芯</li> </ul>	

(6) 本時の幼児の姿

① 学級全体から

**環境へかかわる**



どんな家  
をつくらう  
かなあ～





自分で顔や手足をつけたどんぐりを、確かめながら、イメージを広げている。

使う材料に触れ、大きさや形を確かめながら、つくりたいものをイメージしている。

これまでのつくる活動で親しんだ絵本にかかわって、イメージを広げている。

活動を始める前から期待を持って、環境(自分の作品、材料、これまでの活動の中で楽しんだ絵本)にかかわり、考えたり、つくりたいものをイメージしている姿が見られた。



こんな家つくっ  
てみたいな

**イメージを広げる**



絵本「すてきなおうち」の読み聞かせを聞いて、登場してくる色々な動物や家に興味を持っている。絵本から刺激を受けて、「こんな家づくりたい」とつぶやきながら、自分がつくりたい家をイメージしている姿が見られた。



ペットボトルのふたで、切り株の椅子をつくってどんぐりに座ってもらうの！





様々な材料の扱い方を聞いたり、材料からイメージしたものを全体で話し合い、共有することで、さらにイメージを広げている姿が見られた。

**試行・錯誤しながらつくる**



こうやってつけたら、エレベーターが動くよ



僕は、木の枝も使って、100かいだての家をつくらう

様々な素材を使って見立てたり、組み合わせたり、試行錯誤しながら自分がイメージした家をつくらうと意欲的に取り組んでいる姿が見られた。また、友達の工夫の様子や作品を見て、真似たり、教え合う姿も見られた。

**伝える 認め合う 次の活動へ期待を持つ**



こうしたらもっとよくなるよ



つくれた作品を、全体の場で発表する場面では、自分がイメージしたことや工夫したこと、次回の活動の意欲を伝えていた。他の幼児も友達の思いを聞いて、友達の工夫や頑張りを認める姿が見られた。また、友達のイメージしたものが実現できるように、アドバイスをする姿も見られた。

図 13 「どんぐりの家をつくらう」本時の幼児の姿

## 学級全体からの考察

学級全体からみた幼児の姿は、ほぼ全員がイメージを広げ喜んで活動に参加していた。身近な素材を用いて試行錯誤しながらつくり、友達がつくる様子を見て真似をしたり、教え合いながらつくることを楽しんでた。それは、環境の工夫や、一緒につくる友達の存在、教師が幼児の思いを受け止め、認めた援助をしたことが作品をつくる意欲につながり、安心して自分なりにのびのびと表現することができたと考える。

しかし、一人の幼児がイメージに合った材料が探せず戸惑っている姿が見られた。教師と一緒に探し、工夫する様子を見せても、なかなかつくりたいとしないが、最後まであきらめずに友達の工夫する様子を見て、考えている様子が見られた。その姿から、つくりたい意欲は十分にあったと考える。そこで、次の活動では、材料の種類や量、材料を与える順序を工夫していく。

## ② 抽出児から

A児は、園生活の様々な場面において、意欲的に取り組む姿がなかなか見られず、かいたり、つくったりすることに苦手意識を持っている。

A児が「やってみよう」と思える活動って何だろう？本児の様子を全体の中で観察ながら、安心して取り組めるように本児の思いを大切に援助をしていこう。

A児が興味を持って絵本の読み聞かせや教師の話の聞いたり、「どんぐりころころ」を歌いながら折り紙を折ったり楽しそうに活動に参加するようになった。

歌の世界を話し合うことで、よりイメージが広がり、「どんぐり」を教材にした活動に興味を持ったのではないかと。A児の頑張りを認めていこう。

**A男の変容**  
教師が、A児の思いを受け止めるなどの受容的、共感的援助をしたことで、安心して取り組んでいる。また、いつでも取り組める環境構成を図ったことで、他の遊びの最中でも「先生、どんぐりのつくっていい？」と、つくることを楽しんでいる。本時では、つくりたい家のイメージがあり、すぐに材料を選び、試行錯誤してつくっていた。上手いかなくなると、教師へ「むずかしい」と訴えに来た。その姿からも意欲が感じられる。

その後A児は、3日ほどかけて自分の言イメージした家を完成させている。屋上は飛行場になっていて、飛行機もつくった。

命をこめたどんぐりはパイロットになった！！




図14 「どんぐりの家をつくらう」本時の幼児の姿（抽出児）

## 抽出児からの考察

これまでの活動の様子から、A児は自分から興味・関心を示し、進んで取り組んでいた。活動を通して、A児の興味・関心は日を追うごとに高まっていった。実践の中でのA児の変容からもわかるように、これまでの活動の中での教師の指導、援助は抽出児にとって、有効であったと考える。

## ③ 検証後の姿 「家づくり」から「どんぐりの街をつくらう」の活動へ

幼児は、つくったり、直したりしながら、どんぐりの家を完成させることができた。

段ボールで屋根をつくらっている

100かいだての家にエレベーターを付けて、動かせるように工夫している

どんぐりの街ができたよ！！

街が完成すると、すぐにごっこ遊びが始まり、遊びながら必要に感じたものをつくらしている。街づくりへと遊びが深まったことで、よりつくることへの意欲が高まっている。



図15 「どんぐり街をつくらう」幼児の姿

検証保育②

仮説を検証するために、以下の保育計画で保育実践を行った。

月 日	保育活動	ねらい	☆環境構成◎教師の援助
1/22(火) 造形遊び ①	・「段ボールで遊ぼう」	・段ボールで遊ぶ楽しさを味わう。	☆じっくりと段ボールで遊ぶ場や時間を確保する。 ◎段ボールとかかわる姿を認め、試して遊ぶ楽しさが味わえるように教師も一緒に活動する。 ◎安全面に配慮する。(段ボールカッター)
1/24(木) 1/30(水) 造形遊び ②	・「段ボールの仲間づくりをしよう」 ・前回の続きに取り組む。	・段ボールの大きさや硬さに気づき、素材の種類分けを楽しむ。	☆一緒に段ボールを分類し表示する。 ◎遊びの中の工夫や、面白い事などを、他児にも知らせ興味につながるようにする。 ☆◎遊びが広がった際には、一緒に相談して場の使い方を考える。 ◎安全面に配慮する。(段ボールカッター)
1/31(木) 造形遊び ③ 本時	・「段ボールで遊ぼう」 ・「色付けを楽しもう」	・段ボールで試したり、イメージを広げて友達と一緒に試行錯誤しながら遊びを進める楽しさを味わう。	☆幼児が選びやすいように材料の配置を考える。 ◎色をつけたり、塗ったりする面白さや、色の不思議さなどが感じられるような言葉かけをする。 ◎安全面に配慮する。(段ボールカッター)

本時までの幼児の姿

本時までの幼児の姿は、段ボールの中に入ったり、積み上げたり、段ボールの中で転がったり、段ボールと段ボールをつなげたり、ちぎったりと全身をつかって段ボールで遊ぶことを楽しんでいる。また、段ボール触ったり、踏んづけたりしながら、大きさや、硬さを確かめる姿も見られる。さらに、活動の中で段ボールカッターを準備したことで、切ることや、「ゴゾッて音がする！」と切った音を楽しんでいる。また、段ボールを使った遊びを友達と一緒にすることで、「段ボールで恐竜をつくってみよう」「一緒にトンネルをつくろう」とつくりたいものを決めていた。つくる過程では、遊んで確かめたり、修正ながら夢中になって素材にかかわっている姿が見られた。



「何名入るかな？」と段ボールの中に入って喜んでいる。



「こうやって動かしたら前にいくよ」とキャタピラーになって楽しんでいる。



「この段ボールは柔らかいから手で切れるよ」とちぎって感触を楽しんでいる。



段ボールカッターで切ることを楽しみながら、好きな形をつくっている。



恐竜の足をうまくつくれずにいる友達へ、「ここに穴をあけて、巻いた段ボールを入れたら倒れないんじゃない？」と一緒に考えている様子が見られた。



段ボールをつなげてトンネルの家になった。友達と遊びながら確かめて、手直しを加えていく姿が見られた。

図 16 「段ボールで遊ぼう」本時までの幼児の姿



保育指導案

(1) 活動名 「段ボールで遊ぼう」

(2) 教材 段ボール, 段ボールカッター, レボカラー, スポンジ, ローラー, ガムテープ, 紙テープ

(3) 保育の展開

平成 25年 1月 31日(木)うるま市立川崎幼稚園 そら組 28名(男児 17名 女児 11名)保育者 伊波 薫			
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールとのかかわりを喜び, 箱を組み立て, 「何名入れるかな?」と友達と一緒に中に入ったり, 積み重ねることを楽しんでいる。また, 積み重ねたものを東京タワーに見立てて眺めたりしている。</li> <li>・段ボールをつなげてトンネルにしようとする子が 4 名, 段ボールを切って折り曲げパソコンに見立てて遊ぶ子が 2 名, 家をつくり窓やテーブルを作る子が 6 名, くぐることを楽しむ子が 4 名, 広げて囲いをつくる子が 2 名, 段ボールカッターで切ることや切る際の音を楽しんだり, 色々な形に切って, 光が入る様子を楽しむ子が 4 名, 恐竜をつくりたいと図鑑を見ながら組み立てようとする子が 2 名いた。1 名は段ボールの大きさや他児の様子に圧倒され, 傍観している。小さな段ボールを見つけると安心した様子だった。</li> <li>・友達の作品とつなげたりと遊びが広がり, 発展している。</li> </ul>		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールで試したり, イメージを広げて友達と一緒に試行錯誤しながら遊びを進める楽しさを味わう。</li> </ul>		
活動仮説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールとかかわる造形遊びの場において, 幼児の思いや感性を受け止め, 認める言葉かけや, じっくり素材とかかわり, 試して遊べる環境構成の工夫を図ることで, イメージを広げ友達と一緒にのびのびと表現する楽しさを味わうことができるであろう。</li> </ul>		
時間	○予想される幼児の活動	☆環境構成 ◎教師の援助	
9:30	○準備をする ○材料や取り組んでいるものを教師や友達と一緒に準備する。	◎☆活動で使用する材料や幼児の取り組んでいるものを一緒に準備しながら, 今日の遊びに期待が持てるような言葉かけをし, 意欲を引き出す。 ☆幼児が段ボールや材料を選びやすく, 取り出しやすいように分類する。	
9:40	○教師の話聞く。	◎教材や用具の扱い方を確認し, 安全に使用できるようにする。 ☆じっくりと取り組めるような時間や場の確保をする。	
9:45	○ダンボールで遊ぶ。  ○友達と一緒に考えたり試したりしながらイメージを膨らませてつくっていく。  ○発見や上手にできことを教師に伝える。 ○友達のつくっている様子を見て, 真似をしたり, 工夫したりする。 ○つくったものに色をつけていく。	◎プレイルームの場の空間も作品の一部として捉え, 発想が広がるようにする。 ◎安心して活動に取り組めるような雰囲気作りを心掛ける。 ☆プレイルームを主な活動の場とするが遊びの流れによって活動の場を広げていく。 ◎友達と一緒に遊ぶ姿を見守りながら, 友達の思いや考えに気づけるようにする。 ◎幼児の思いや考え, イメージしたものを受け止め, 言葉かけや表情で共感していく。 ◎幼児の頑張っている姿や工夫している姿を認め, 他児に知らせしていく。 ◎色や形のおもしろさや美しさに気づけるような言葉かけをする。 ◎個別に援助が必要な幼児へ, 場に応じて言葉かけをし, 一緒につくったり, 色を塗ったりしてイメージが実現できるようにする。	
10:45	○使った物を片づける。	☆片づけしやすい環境の工夫をし, 幼児が遊んだものを大事にできるようにする。 ◎遊んだ段ボールは見立て遊びをしたり, 次回へのつなぎになるのでそのままにする。	
11:00	○学級でのひととき ○教師や友達の話聞く。 ○今日の遊びの感想等を発表する。	◎つくったものを紹介し, 今日の活動を振り返り, 幼児の思いや, 工夫したこと, 困ったこと, 次の活動への思いを聞いていく。 ◎自分一人で自信をもって発表できるように援助する。	
11:15	○みんながつくったものをみる。	◎頑張りを認め, 幼児の自信へとつなげる。 ◎友達のつくったものの良さや, おもしろさが味わえるようにする。	
評価	検証項目	検証観点	
	環境構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールでつくったり, 色をつけたり, 繰り返し試して遊べるような場づくりができていたか。</li> <li>・段ボールや材料を選んで取り出したり, 片付けがしやすいような環境の工夫がされていたか。</li> <li>・つくったものへの色付けが楽しめるように, 試したり, 工夫ができるような教材, 教具が用意されていたか。</li> </ul>	観察評価表を活用
教師の援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師も一緒に遊んだりしながら, 変化や工夫を受け止め, 認める援助(言葉かけ, 表情, しぐさ)ができていたか。</li> <li>・戸惑っている子への援助や言葉かけがされていたか。(励ます, ヒントを与える, 褒めるなど)</li> <li>・形のおもしろさ, 色の美しさ, 不思議さを感じられるような言葉かけがされていたか。</li> </ul>	観察評価表を活用	

本時で使用する材料（素材、画材等）の使用方法和留意点

表6 本時で使用する材料の使用方法和留意点

材料	特性 使用方法	留意点
段ボール	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 軽くて耐久性があり、幼児の遊びに取り入れやすい。</li> <li>• 形や大きさ、紙の厚みなどが様々で種類分けも楽しめる。</li> <li>• 広げる、折り曲げる、切る、積む、つなげる、丸めるなど幼児が全身をつかって遊べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 様々な大きさの段ボールを用意し幼児が選べるようにする。</li> <li>• 段ボールにホチキスの針が使われているものもあるためとっておく。</li> </ul>
段ボールカッター	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 段ボールを切る際に使用する。ハサミよりも安全で、かたい段ボールでも簡単に切る事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 使用する際の約束事を確認し、使用する場面でも、安全面に配慮する。</li> </ul>
レボカラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 段ボールに色をつける際に使う。</li> <li>• 乾いても水で落とすことができる。</li> <li>• ローラー遊びや版画遊びに適している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 幼児がのびのびと表現することを保障するため、汚れてもよい服を幼児に着用させるよう保護者へ連絡する。</li> </ul>
スポンジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 色を付ける際に使う。</li> <li>• 色をのぼしたり、スタンプ遊びのように楽しめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 幼児の手の大きさにあったスポンジを選ぶ。</li> </ul>
ローラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 色を塗る際に使う。転がしながら色を塗る楽しさが味わえ、一度で広く色を塗ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• バットを使用する。</li> <li>• 画材に合うものを選ぶ。</li> </ul>
ガムテープ 紙テープ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 段ボールをつなげたり、くっつける際に使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 扱いが難しい場合は教師も手伝う。</li> </ul>
マジック	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 形を切り取る際の目印として使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 使用後の片付け方を指導する。</li> </ul>

(4) 本時の評価

本時の評価を、観察者（10名）から見た学級全体と抽出児（5名）の結果をもとに、以下の表7、表8にまとめ、考察する。

表7 観察者が見た評価（学級全体）

観察者が見た評価(学級全体)				
【評価項目】 段ボール等の素材に興味・関心をもってかかわり、イメージを広げて遊びを楽しんでいるか	ほぼ全員が、興味・関心をもってかかわり、意欲的に取り組む姿が見られた。	3分の2ほどの幼児が、興味・関心をもってかかわり、意欲的に取り組む姿が見られた。	半分くらいの幼児が興味・関心をもってかかわり、意欲的に取り組む姿が見られた。	3分の1くらいの幼児が、興味・関心をもってかかわり意欲的に取り組む姿が見られた。
評価	90%	10%	0%	0%



段ボールで恐竜が作りたいと、図鑑を開いて確認しながら、友達と一緒につくっている様子。

レボカラーで段ボールに色をつけている様子。ローラーで色をのぼしたり、スポンジでたたきながら色付けを楽しんでいる。

図17 「段ボールで遊ぼう」本時の幼児の姿(全体)

① 学級全体からの考察

観察者から見た学級全体の評価は、表7で示されているように、ほぼ全員が段ボール等の素材に興味・関心をもってかかわり、イメージを広げて意欲的に遊びを進めていたことがわかる。観察者は「自分がイメージしたものを実現するために、段ボールを選び、試しながらつくっていた」「色をつける面白さや色が混ざり合う様子を友達と見せ合い楽しんでいた」「ローラーとスポンジを試しながら、どれを使った方がよいか考えていた」と、幼児の姿をとらえている。

それは、材料等を選び、じっくりかかわり試してみたいくなる環境や、一緒に段ボールでつくったり色をつけることを楽しむ友達の存在、幼児の思いや感性を受け止める教師の援助により、段ボールで遊ぶ意欲につながったと考える。また、友達の姿から「自分も試してみよう」「一緒につくってみたい」と意欲を示す幼児も見られるので、その思いを受け止め今後の活動へとつなげ、より満足感を味わえるように援助していきたい。

表 8 観察者が見た評価（抽出児）

観察者から見た評価（抽出児5名）				
【評価項目】 段ボール等の素材に興味関心をもってかかわり、イメージを広げて遊びを楽しんでいるか	自分から興味・関心をもってかかわり、進んで取り組んでいる。	教師の援助や友達の姿から、「やりたいな」と興味・関心を示し、取り組んでいる。	教師の援助により、取り組んでみるが、最後までとりくもうとせずに、あきらめたり、戸惑っている。	意欲が見られず、教師の援助や友達の誘いがあっても取り組もうとしない。
評価	A児, C児	D児, E児	B児	



図 18 「段ボールで遊ぼう」本時の幼児の姿（抽出児）

② 抽出児からの考察

観察者から見た抽出児の姿は、表 8 で示されているように、2名の抽出児が自分から進んで段ボール等の素材に興味・関心をもってかかわり、イメージを広げて意欲的に遊びを進めていたことがわかる。またD児は、活動当初色をつけたいが不安そうな表情であった。しかし、教師が言葉かけをして一緒に取り組んだことで、安心して色付けを楽しんでいた。E児は、友達がイメージを膨らませて色付けを楽しんでいる様子から、興味を示し試してみようとする姿が見られた。

そのことから、抽出児4名がこの活動で、段ボールでつくったり、色を塗ることに興味・関心をもって遊びを楽しむことができたと考える。B児においては、友達の主張に押され、最後まで自分がしたい遊びに取り組むことができなかったため、この評価とした。しかし、活動への興味・関心は十分にもっていると考えられる。

検証後B児が、自分の思いを友達へ伝えながら遊びを進める楽しさが味わえるように、B児の思いを受け止め、励まし自信をもって自分の思いを主張できるように援助した。また、友達がつくりたいものを完成させた様子から刺激され、B児は友達へ「今は自分の好きな物つくるから、後で「遊ぼう」と伝え、自分なりに段ボールでつくって遊ぶことを楽しんでいた。本時では見られなかったB児の変容から、教師の援助や周囲の環境の大切さを感じる事ができた。

本時の環境構成と教師の援助の評価を、観察者（10名）から見た結果をもとに、以下の表9にまとめ、考察する。

表 9 観察者が見た評価（環境構成と教師の援助）

（A良い、B概ね良い、Cあまり工夫が見られない、Dまったく工夫や配慮が見られない）

検証項目	検証観点	評価			
		A	B	C	D
環境構成	・段ボールでつくったり、色をつけたり、繰り返し試して遊べるような場づくりができていたか。	90%	10%	0%	0%
	・段ボールや材料を選んで取り出したり、片付けがしやすいような環境の工夫がされていたか。	90%	10%	0%	0%
	・つくったものへの色付けが楽しめるように、試したり、工夫ができるような教材、教具が用意されていたか。	70%	30%	0%	0%
教師の援助	・教師も一緒に遊んだりしながら、変化や工夫を受け止め、認める援助（言葉かけ、表情、しぐさ）ができていたか。	80%	20%	0%	0%
	・戸惑っている子への援助や言葉かけがされていたか。（励ます、ヒントを与える、褒めるなど）	80%	20%	0%	0%
	・形のおもしろさや、色の美しさや不思議さが感じられるような言葉かけがされていたか。	100%	0%	0%	0%

### ③ 観察者から見た環境構成と教師の援助の考察

#### 環境構成について

幼児が自分から興味・関心を持って、素材や材料等にかかわることができるような、空間も含めた場づくりや材料等の配置などの環境の工夫をしたことで、幼児が主体的に活動に取り組む意欲へとつながった。しかし、色付けを楽しみ、試して工夫ができる教材、教具の準備においては、教師の教材研究が不十分で、ローラーの選定に課題が見られた。幼児の活動の充実と、さらに意欲的に遊びを楽しませるために、教師の教材や画材等の研究を深めることが大切だと再確認できた。

#### 教師の援助について

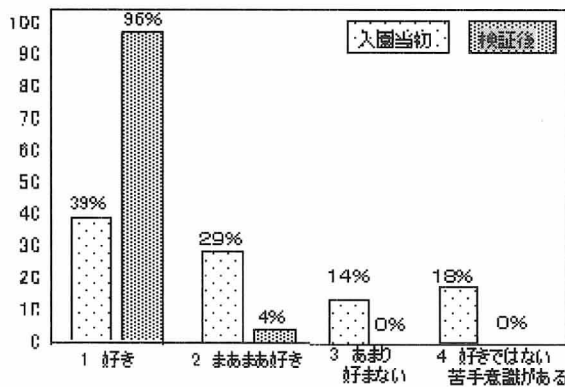
教師と一緒に遊びを楽しみ、幼児の思いや工夫する姿を受け止め認める援助や、幼児が形のおもしろさ、色の美しさなど色が混ざり合う様子に気づき、よさが感じられるような言葉かけができた。このことから、幼児が「やってみよう！」という意欲をもち主体的に遊びを進めることができたと考える。

しかし、活動の中で個々に応じた援助について課題が残った。幼児一人一人が自分なりにのびのびと表現する姿が見られたが、友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを主張できずにいた幼児への援助が不十分であった。今後、個々の発達の課題に応じた教師の援助をきめ細かにを行い、幼児が主体的に遊びを展開させる楽しさが味わえるようにしていく。

## VII 造形表現に関する保護者アンケートにみる幼児の変容

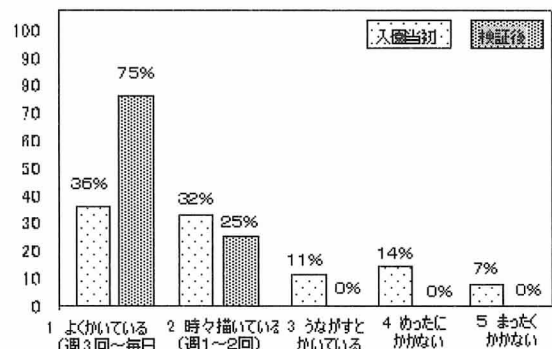
1 家庭における幼児の造形表現に関するアンケート調査を行った。入園当初と検証後の幼児の姿を比較した結果は以下の通りである。

項目1 お子さんは、絵をかくことが好きですか。



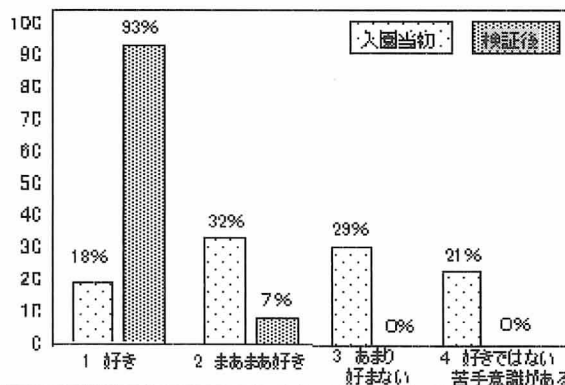
入園当初、約3割の幼児が絵をかくことを好まず、苦手意識を持っていたが、これまでの活動を通して、96%の幼児がかくことを好きになっている。その内、53%の幼児がさらに好きになっていると答えている。

項目2 家庭の中で絵をかいて遊ぶ頻度はどのくらいですか。



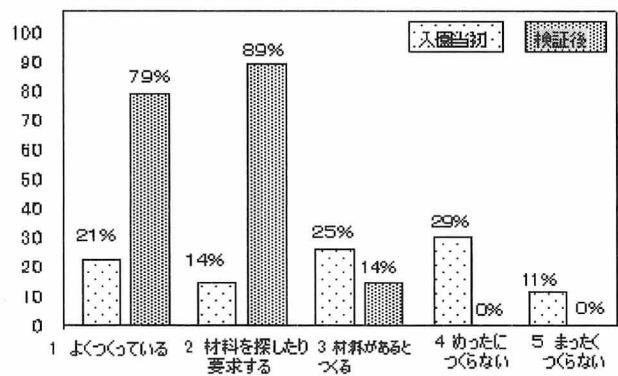
幼児が家で絵をかいて遊ぶ頻度が、入園当初と比べ全体的に増えている。園で取り組んだ活動を、家庭でも繰り返し楽しんでいることが分かる。

項目3 お子さんは、廃材等を使って、つくることが好きですか。



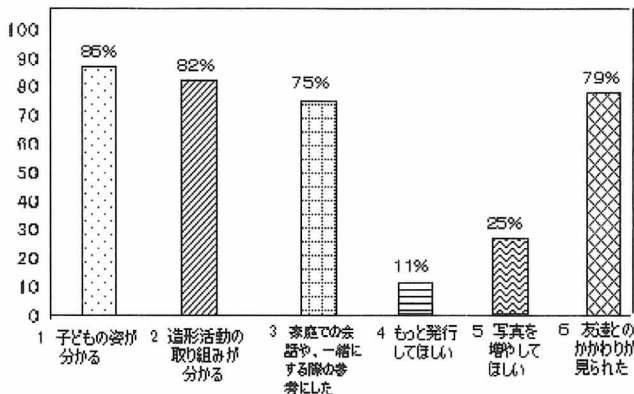
廃材等で作って遊ぶことを好まず、苦手意識を持った幼児が半数いたが、検証での取組等を通して、93%がつくる事が好きになったことが分かる。その内、43%はさらに好きになったと答えている。

項目4 家庭の中で、つくって遊ぶ頻度や材料への興味関心は、どの程度ありますか。(検証後は複数回答)

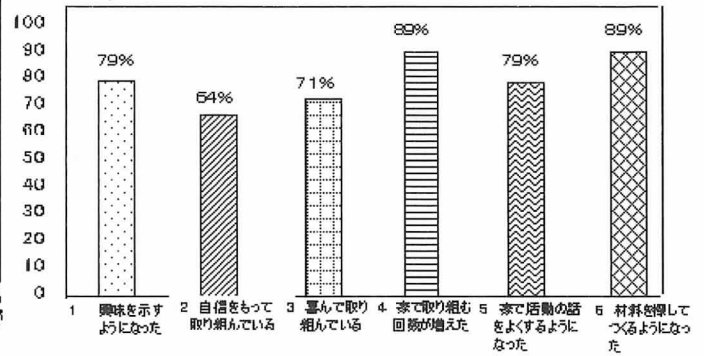


入園当初、家でめったにつくらない、全く作らない幼児が4割いたが、検証後よくつくったり、材料を自ら探してつくようになったことが分かる。

項目5 造形活動に関するクラスだよりの評価



項目6 幼稚園での造形活動を通して、興味や、意欲に変化がみられましたか。



造形活動の様子を、学級通信を通して保護者が知ることができ、家庭での会話や一緒にかいたり、つくったりすることへの参考になったことが分かる。

園での造形表現の取り組みを通して、かいたり作ったりすることへの興味を示す幼児が約8割いる。また、家で取り組む回数が増えた、材料を探してつくるようになった幼児が約9割いることが分かる。

アンケートからの保護者の声

- ・「いま、〇〇がしたい」「段ボールを探しに行きたい」と自分から主張して言えるようになり、いろいろな材料を探したり、自分で行動するようになりました。
- ・小さい時から、かいたりつくったりする事が大好きでしたが、思い切り絵の具を使ったり、廃品で大きな作品をつくったりと、園でやった遊びを家でも自分で用意して再現していました。
- ・まったくつくすることに興味を示さなかったが、幼稚園の造形活動の取り組みがすごくて、わが子が興味を持つようになりました。
- ・葉っぱや木、動物の絵など、家でかいている絵からも変化が見られました。色づかいが単色使いでしたが、色を重ねたり、細かく表現できるようになりました。
- ・仲間と一緒につくることの楽しさ、大切さを感じ取れたと思います。家でも近所の友達数名で、段ボールで家や基地をつくっていました。幼稚園での遊びが家でも見る事が出来て良かった。
- ・家でかいた絵やつくった物をただ、飾っていた子が飾る場所を考えたり、空間につりさげてインテリアのように飾ったり、つくるだけでなく飾ることも楽しんでいました。
- ・この取り組みで、たっぷり自信をつけていただき、考える力、想像して表現する力をつけていただきました。なによりも、子どもがいつも目をキラキラさせてわくわく感があふれ出ていました。

2 保護者アンケートからの考察

このアンケートの結果と保護者の声から、入園当初と比較して幼児の造形表現への興味や意欲が高まり、家庭においても園での遊びを再現して遊ぶ幼児が増えたことが分かる。また、家庭へ学級通信を通して幼児の造形表現の様子や成長を伝えたことで、保護者の幼児期の造形表現に関する理解が深まった。さらに幼稚園と家庭が連携し、互いに幼児の造形的な遊びの時間や場の保障をしたことで、幼児の造形表現への興味や意欲が持続したと考える。

Ⅷ 研究の成果、課題、対応策

1 成果

- (1) 教師が計画した活動を取り入れるだけでなく、幼児の姿から興味・関心を捉え幼児の思いや発想を受け止めながら環境を再構成していったことで、環境へ主体的にかかわり、感性を広げのびのびと自分なりに表現して遊ぶ姿が見られた。
- (2) 教師が様々な素材や教具を活かした遊びを取り入れたことで、幼児が素材や材料のよさや違いを味わいながら試行錯誤し、つくって遊ぶことを楽しむ姿が見られた。
- (3) 教師や友達の存在が人的環境となり、安心して自分なりに表現する姿や、友達とかかわり試行錯誤して遊びを楽しむ姿が見られた。
- (4) 教師が幼児の思いや発想を受け止め共感したことで、幼児が自分なりに表現する姿が見られた。また、自信や意欲につながる志向的な援助を心がけたことで、より遊びが展開された。

2 課題

- (1) 幼児がかかわる環境や材料（自然素材、廃材等）、画材等のさらなる教材研究の工夫
- (2) 幼児の一人一人が自分を発揮して表現する援助のさらなる工夫

### 3 対応策

- (1) 幼児がかかわる環境を構成する時期やタイミング，幼児一人一人の発達の課題を捉えた材料や与え方等を，教材研究を通して深めるとともに，教師自身も造形表現を楽しみ，表現の幅を広げ，よきモデルとなるように心がけていく。
- (2) 日々の保育や幼児の姿を，学級全体と個々の幼児の両方から記録し，幼児の思いや興味・関心を読み取る力を高め，援助の方向性を確認しながらかかわっていく。

#### 〈主な参考文献〉

- 文部科学省 平成 20 年 10 月 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
- 村田夕紀 2011 『楽しい絵を描く実践ライブ』 ひかりのくに株式会社
- 田中義和 2011 『子どもの発達と絵画活動の指導』 ひとなる書房
- 奥村高明 2010 『子どもの絵の見方』 東洋館出版社
- 柴崎正行・若月芳浩編 2009 『保育内容「環境」』 ミネヴァ書房
- 森上史郎・柏女霊峰編 2008 『保育用語辞典第 4 版』 ミネヴァ書房
- 槇英子 2008 『保育をひらく造形表現』 萌文書林
- 井上勝子 平成 19 年 『豊かな感性を育む表現遊び』 ぎょうせい
- 東山明 2005 『表現活動を豊かにする絵画・製作・造形遊び指導百科』 ひかりのくに株式会社
- 大場牧夫 2000 『表現原論』 萌文書林
- 西村貞雄 1980 「造形表現能力の発達の道筋と発達の節」 美術教育を進める会
- 柴崎正行 1997 『環境づくりと援助の方法』 ひかりのくに株式会社
- 柴崎正行 1997 『子どもが生き生きする保育環境の構成』 小学館
- 柴崎正行 1992 『幼児の発達理解と教師の援助』 チャイルド本社